

持続可能な社会の実現に向け、課題解決に取り組むことができる内容の充実

主権者として社会に参画する意識を高めることができる教材・内容

持続可能な社会の実現に関わる社会の諸課題の扱いを充実させ、生徒がそれらの課題を、歴史の流れをふまえて考察することができるように工夫しました。また、地域社会と関わりながら学習できるページを充実させました。

自己と歴史との関係について考えを深められる資料ページ 巻頭1・2

生徒が自分たちと歴史のつながりを意識できる「私たちにつながる歴史」(巻頭1・2)や、歴史の大きな流れを見開きで一覧することができる「歴史年表」(巻末2・3)、歴史の中で人々がどのように世界を捉えてきたのかを考えることができる「世界地図の歴史」(巻末4)などの資料ページを充実させました。



私たちに繋がる歴史

さまざまな人たちの努力で、伝統や文化財が受け継がれてきたんだ。

アイヌ民族の伝統的な舞踊を披露する人々たち (北海道札幌市)

鉄道の安全や豊漁を祈る祭りの伝統行事「舟屋ハーハー」で、競艇船を漕ぎ、競い合う人々たち (静岡県沼津市)

長崎くんちで華納蘭を演じる人々たち (長崎県長崎市)

日光東照宮の三輪の修復を行う様子 (栃木県日光市)

地震の被害を受け、修復作業が進められる熊本城 (熊本県熊本市)

人々の政治参加のあり方

明治時代の選挙 (熊本県)

戦後初めて行われた衆議院議員選挙

地盤を揺るがす江戸時代の瓦版

メディアの多様化

防災の授業で災害情報をやりとりする高校生

地震に直撃したラジオ (茨城県)

歴史の中で、さまざまな変化が起こってきたんだ。

アメリカのライト兄弟が開発した飛行機

国際宇宙ステーションから分産した「こうのとり」7号機

科学・技術の発展

天の川に浮かぶ月舟

夏の日には、星空を見守る

種子本入道と、人麻呂がよんだ和歌

14 民権議院を開設せよ 自由民権運動と政界の誕生

国会の開設をめぐって、民権派や政府はどのような主張をしたのだろうか。

自由民権運動の中心となった自由民権派は、士族(貴族)の子弟で、ほかに何人もの自由民権家が脱離、運動の旗手となりました。また、前期の藩閥33区のある地域に、多量に自由民権派が参入した。当時の人々がどのような主張をしたのだろうか。

自由民権運動の中心となった自由民権派は、士族(貴族)の子弟で、ほかに何人もの自由民権家が脱離、運動の旗手となりました。また、前期の藩閥33区のある地域に、多量に自由民権派が参入した。当時の人々がどのような主張をしたのだろうか。

政治や人権の歴史を捉えやすい紙面

生徒が、現在の政治や人権について、歴史の流れに位置づけながら思考・理解を深めることができるよう、政治や人権の来歴を取り扱うページを充実させました。本時ページでは、各時代の政治や人権の動きを学習しやすい構成を工夫しました。特設ページでは、女性や民衆など、政治・社会に参画した人々の姿を取り上げました。

明治期の面影を訪ねて——近代に生きた地域の人々

自由民権運動の中心となった自由民権派は、士族(貴族)の子弟で、ほかに何人もの自由民権家が脱離、運動の旗手となりました。また、前期の藩閥33区のある地域に、多量に自由民権派が参入した。当時の人々がどのような主張をしたのだろうか。

植木枝盛と中江兆民

「自由は士族の山崩れ」とは、植木枝盛の言葉です。枝盛は、1881(明治14)年に発表した演説「日本国家論」の中で、人権は国家に属する権利でなく、国民固有の権利であり、人権が守られない場合は生命を賭して争うべきであるとして、人権の擁護を主張し、普通選挙の導入、藩閥政治の刷新などを主張しました。

また、フランスのルソー(p.149)の思想を紹介した中江兆民は、「東洋新報」の中心となって自由民権の思想を広げ、「東洋のルソー」とよばれました。兆民は、天竺(インド)を批判し、普通選挙の導入、藩閥政治の刷新などを主張しました。

植木枝盛や中江兆民のこうした民主主義の思想は、多くの人々に影響を与え、受け継がれていきました。

多摩の自由民権運動

多摩地区はかつて、多摩川に集う多くの自由民権派が活躍しました。また、民権派の中心となった自由民権派は、士族(貴族)の子弟で、ほかに何人もの自由民権家が脱離、運動の旗手となりました。また、前期の藩閥33区のある地域に、多量に自由民権派が参入した。当時の人々がどのような主張をしたのだろうか。

立派な時代から、江戸近郊、経済などのつながりが深くなった多摩には、新しい文化や情報が伝わっていました。また、開港場には、外国の新聞が送られてきた。また、多摩地区には、外国の文化や知識が伝わりました。

多摩地区はかつて、多摩川に集う多くの自由民権派が活躍しました。また、民権派の中心となった自由民権派は、士族(貴族)の子弟で、ほかに何人もの自由民権家が脱離、運動の旗手となりました。また、前期の藩閥33区のある地域に、多量に自由民権派が参入した。当時の人々がどのような主張をしたのだろうか。

2 身近な地域の歴史を調べよう

身近な地域の歴史を調べる学習の方法について学びましょう。(ここでは新潟県新潟市例に例えます。)

1 テーマを決めよう

地域にはどんな歴史があるかな

歴史は、教科書や本の中だけでなく、私たちの身の周りにもあります。出かけたときに見かけた建物や風景、街並、小学生のときにきいた話や行事なども地域の歴史を知るきっかけの一つです。次のページを参考にして、身近な地域にどのような歴史があるか探ってみましょう。班で話し合おうと、自分だけでは気づけなかったことも発見できるかもしれません。意見を出し合ったら、興味や疑問をもったもの、この中からテーマを決めよう。

地域調査の手引き 1

【調査全体の見通しを立てよう】

1 テーマを決める	2 情報を集める	3 調査の課題を決める	4 地域調査を実施する	5 整理して観察する	6 結果をまとめる	7 発表して振り返る
地域にはどのような歴史があるか、班で意見を出し合おう。	教科書や図書館の本、インターネットなどを調べて、まずは学校内で情報を集めよう。	情報を集めるなかで発見したことや、疑問に思ったことを班で話し合い、調査の課題を決めよう。	調査計画を立て、見学の予定や現地を調べ、そのことを明らかにしてから、見学やインタビューに取り組みしよう。	調査の記録や集めた資料を整理して、そこからどのようなことがいえるか、班で話し合おう。	調査の結果を文章、地図やグラフ、表やイラストなどに表現して、レポートを作りよう。	発表会を開いて、調べたことを発表しよう。ほかの班と意見交換をして、調査を振り返りよう。

自ら地域と関わる力を育む 「身近な地域の歴史を調べよう」 p.10-16

身近な地域の歴史を調べる学習活動については、生徒が主体的に調査計画を立て、地域社会と関わりながら学びを展開できるよう、学習の進め方を示す「地域調査の手引き」や生徒が活動する様子の写真を充実させました。

2 地元の子どもたちに日本語を教える 青年海外協力隊員(セネガル)

社会と関わる人々の様子を多数掲載した現代史 p.276-283

災害時における共助・公助の場面や、国際支援の様子など、現代に生きる人々の多様な社会との関わりについて、扱いを充実させました。

6 被災地で救援活動を行う自衛隊員や他県から駆けつけた警察職員(2016年 熊本県益城町)

7 紛争地域で手当てをする国境なき医師団

5 被災者に炊き出しを行うボランティアの人たち(1995年 兵庫県神戸市)

2 社会的な課題を多面的・多角的に捉え、考察することができる教材・内容

コラム「歴史の窓」や特設ページを充実させ、本文とは異なる視点から歴史を捉えなおすことができるように工夫しました。資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、根拠をもって判断し、豊かに表現する力を育みます。

歴史の窓 宋と高麗

10世紀後半に中国を統一した宋(+p.50)は、12世紀前半に、北方におこった金の戦いに敗れ、都を南に移しました(南宋)。宋では、長江以南でも新田の開発が進み、新たな都市が発達しました。茶や陶磁器などの生産も盛んになり、絹の貨幣(宋銭)とともに日本に輸出されました。また、木版印刷が広まり、火薬や羅針盤が活用されるなど、科学技術が発達しました。仏教では、禅宗や浄土宗が栄え、日本の仏教にも影響を与えました。儒教では、朱子の学が成立した。10世紀前半に朝鮮を統一した高麗(+p.50)では、仏教を国で保護し、経典が木版にほられて印刷されました。青磁とよばれた美しい磁器も作られ、これは日本にもたらされました。

12世紀の東アジアと日宋貿易

5 厳島神社(広島県)

学習内容の背景や影響を考察することができる「歴史の窓」

本文で学習した内容について、その歴史的対象の背景や影響を扱うコラムです。全体で19テーマを設けています。たとえばp.64~65では、本文で平氏政権を取り上げていますが、「歴史の窓」では、日宋貿易の相手国である宋の科学技術や文化などについて扱っています。またp.273の「歴史の窓」では、冷戦下の核開発や高度経済成長期の公害問題などと、特撮映画とのつながりを取り上げ、社会的なできごとが文化にも影響を与えていることに気づける内容になっています。

▲ p.64-65

戦争の記憶をつなぐ人々

戦争が人々の生活や社会にもたらす影響は、計り知れません。過去の戦争では、多くの人が命を失った。心身に深い傷を負った。日本はそうした経験を通して、戦争は国際社会に善をもたらすことなく、平和な時代を迎えています。これらが戦争の記憶を継ぎ、二度と戦争を繰り返さないために、人々が取り組んで来たことを探ってみたい。

戦争体験者の声を残す

日本では、兵士として戦争を体験した人々や、空襲の被害や疎開を体験した人々が語り継ぎ、戦争に生きる人々のために自らの経験を語り継ぎました。しかし、そうした活動は、戦争を体験した人々が高齢になり、継ぎたいことが難しくなっています。そうしたなかで、若い世代による語り継ぎなど、戦争の記憶を未来に残すための取り組みが各地で行われるようになってきました。

2 ひめゆり学徒隊の手記

このような手記をまとめた資料も、戦争体験を知る手がかりになります。

3 空襲を受けた鉄橋の一部(伊予長門市)

1945年には全国各地で空襲を受けようになり、その被害が甚大になりました。この被害は2011年の東日本大震災で甚大でしたが、戦時中の空襲被害を伝える資料も残っています。空襲を受けた鉄橋の一部は、空襲被害を伝える資料として保存されているところもあります。

4 軍事用の資料を展示した展示(徳島県)

空襲では、重要な軍事施設が損壊されました。かつての軍事施設や行軍道があった地域では、空襲を受けた鉄橋の一部を展示した展示場が設けられています。

世界の人々とともに、平和を語り継ぐ

「戦争の記憶を未来に伝える。次世代の人々へつなぐためにどうすればよいか」という課題は、戦争を経験した世界各国に共通するもので、当時の状況を物語る資料や建物、戦争を体験した人々の証言などを大切に受け継いでいくことが求められています。大戦の中で大規模な被害を受けたアフジビツなど、悲惨な歴史をもつ地域では、戦争に関する資料を収集・保存・展示する資料館や博物館を建て、歴史の継承に取り組んでいます。

3 アフジビツの歴史を説明する、中台(台湾)

4 広島平和記念資料館の展示を見学する

5 アフジビツの歴史を説明する、中台(台湾)

6 アフジビツの歴史を説明する、中台(台湾)

7 保存工事が行われた原爆ドーム(1962年 広島県)

8 保存工事が行われた原爆ドーム(1962年 広島県)

各地に残る戦争遺跡

戦争の犠牲者になった場所は、戦争遺跡として保存され、私たちに戦争の歴史を伝えます。

3 空襲を受けた鉄橋の一部(伊予長門市)

4 軍事用の資料を展示した展示(徳島県)

5 各地に残る戦争遺跡

6 各地に残る戦争遺跡

さまざまな形で戦争を伝える

広島での原爆の被害を伝える資料館、徳島県では、その歴史を絵巻として残しました。原爆に被害を受けた原爆二の丸(原爆二の丸)で戦争を経験した人々を、国内で戦争工場などの勤務者や、空襲を体験した手塚君は、それぞれの体験を「絵巻(巻物)」や「紙の巻」などの絵巻に表現しました。

7 保存工事が行われた原爆ドーム(1962年 広島県)

8 保存工事が行われた原爆ドーム(1962年 広島県)

▲ p.248-249

視点を変えて、学習内容を捉えなおす特設ページ

歴史の動きについて、本時ページには登場しない人物の視点や、後の時代への影響やつながりなどの視点から、生徒が捉えなおすことができるページです。全体で20テーマを設けています。たとえばp.248~249では、第二次世界大戦の記録や記憶を継承する人々の取り組みを取り上げ、生徒が現代の私たちと過去の戦争とのつながりに気づけます。またp.268~269では、現代の日本の領域をめぐる課題について、明治期の領土の画定(p.176~177)と結び付けながら学習することができます。

8 わが家にテレビがやってきた

マスメディアの発達と戦後の文化

4 湯川秀樹

5 家庭用テレビの普及

6 戦後復興期の文化

7 戦後の文化

8 わが家にテレビがやってきた

9 戦後の文化

10 戦後の文化

11 戦後の文化

12 戦後の文化

13 戦後の文化

14 戦後の文化

15 戦後の文化

15 形づくられる日本

領土の画定と北緯線・沖縄

16 領土の画定と北緯線・沖縄

17 領土の画定と北緯線・沖縄

18 領土の画定と北緯線・沖縄

19 領土の画定と北緯線・沖縄

20 領土の画定と北緯線・沖縄

21 領土の画定と北緯線・沖縄

22 領土の画定と北緯線・沖縄

23 領土の画定と北緯線・沖縄

24 領土の画定と北緯線・沖縄

25 領土の画定と北緯線・沖縄

▲ p.176-177

16 領土の画定と北緯線・沖縄

日本の領土をめぐる課題

17 領土の画定と北緯線・沖縄

18 領土の画定と北緯線・沖縄

19 領土の画定と北緯線・沖縄

20 領土の画定と北緯線・沖縄

21 領土の画定と北緯線・沖縄

22 領土の画定と北緯線・沖縄

23 領土の画定と北緯線・沖縄

24 領土の画定と北緯線・沖縄

25 領土の画定と北緯線・沖縄

20 領土の画定と北緯線・沖縄

日本の領土をめぐる課題

21 領土の画定と北緯線・沖縄

22 領土の画定と北緯線・沖縄

23 領土の画定と北緯線・沖縄

24 領土の画定と北緯線・沖縄

25 領土の画定と北緯線・沖縄

歴史の窓 ゴジラが見た日本社会

怪獣映画『ゴジラ』の第1作は、1954年11月に公開されました。ゴジラは、南太平洋の海底で生き残った太古の恐竜で、水爆実験によって眠りから覚め、水爆のエネルギーを体にためた怪獣となって人類を襲うという設定でした。同年3月には、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行って、日本のマグロ漁船第五福丸が被ばくし、原水爆禁止運動が高まっていた(+p.263)。冷戦下の核開発と、反核運動の高まりの中で映画は公開されたのです。

1971年に公開された第11作『ゴジラ対ヘドラ』は、汚染された海のヘドラを食べて巨大化する怪獣ヘドラとゴジラが戦う設定で、高度経済成長期に発生した公害問題(+p.271)を背景にしています。エンターテインメント性の高い特撮映画にも、当時の社会問題が映し出されています。

6 映画『ゴジラ対ヘドラ』のポスター

▲ p.272-273

268 竹島(高根島)

日本の領土をめぐる課題

269 竹島(高根島)

269 尖閣諸島(沖繩県)

日本の領土をめぐる課題

270 尖閣諸島(沖繩県)

